

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 市2

千葉市立稲毛高等学校 全日制の課程 国際教養科

1 期待する生徒像

人物ならびに学習成績に優れ、入学後も学習活動に意欲的に取り組むとともに、部活動や生徒会活動・学校行事等に積極的に参加する者。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名程度・評価者3名の集団面接 検査時間：1グループ12分程度

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書

アの数値に、才及び力について加点(上限30点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で算出した数値で評価する。 3年次に、評定1の教科がある場合、または英語の評価が評定3以下の場合には審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において20日以上欠席がある場合、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	総合的に判定する際の資料とする。
エ 特別活動の記録	総合的に判定する際の資料とする。
オ 部活動の記録	①部活動(10点満点) ②各種検定(10点満点) ③各種コンクール(10点満点)
カ 特記事項	以上の3点について、一定の基準を満たすものについて加点する。
キ 総合所見	総合的に判定する際の資料とする。

(3) 面接 [30点満点]

3名の評価者が次の3つの評価基準に基づき、A(優れている)・B(標準的である)・C(問題がある)の3段階で評価し点数化する。3名分を合計したものを評価点とする。
2名以上がC評価の場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 目的意識	学習や部活動への意欲、将来の目標が明確である。
ウ 適性・態度	質問内容を把握し適切に回答することができる。服装や身だしなみが整えられており、基本的な面接作法が身に付いている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

- ① ア 調査書の「教科の学習の記録」を算式1で算出した数値の合計値で順位をつける。
- イ 学力検査の合計値に面接検査の評価点を加え順位をつける。
- ウ ア・イとともに予定人員の80%以内に入り、かつ調査書の記載内容等で特に問題となる点がない者を入学許可候補者内定者とする。
- なお、受検者が予定人員に満たない場合は、「予定人員の80%以内」を「受検者の80%以内」と読み替える。
- ② ①で内定者とならなかった者については、上記①アの点数に調査書のオ、カの項目で加点した得点、学力検査の得点及び面接検査の評価点を合計したものを総得点とする。総得点の高い順に審議し、総合的に判定し、予定人員までを入学許可候補者内定者とする。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定(算式1)	加点	面接	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	30点	30点	$(695 + \alpha - m)$ 点

(算式1) α : 県が定める評定合計値の標準値95
 m : 当該志願者の在籍する中学校の第3学年(義務教育学校にあっては、後期課程の第3学年)の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜のための資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。